

# 感染症の

## 登所基準

病名	潜伏期間	治癒証明	感染可能	主な症状	登所基準
インフルエンザ	1～2日	○	感染後約10日	発熱・全身倦怠・筋肉痛 鼻カルタ・咽頭痛・咳	発症した後5日を経過し、かつ 解熱した後3日を経過するまで
新型インフルエンザ	1～3日	○		38℃以上の高熱・筋肉痛 関節痛・頭痛	発症した日の翌日から7日 を経過するまで
百日咳	6～15日	○	感染後約3週間	発作性咳の長期反復、持続	特有の咳が消失したとき
はしか(麻疹)	10～12日	○	発疹出現の前後 4～5日	上気道のカタル・発熱 粘膜疹コプリック斑	発疹に伴う熱が下がった後、 3日を経過し元気なとき
おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)	14～24日	○	発症(腫れ)7日前～ その後9日続く	発熱・耳下腺、舌下腺、 顎下腺の腫脹及び圧痛	耳下腺などの腫れが見られるよう になってから5日を経過するまで
三日はしか(風疹)	14～21日	○	発疹出現の前後 7日間	種々の発疹・軽熱 リンパ腺腫大	発疹が消失したとき
みずぼうそう(水痘)	11～20日	○	水疱発現前2～ 発症後7日	軽熱・被覆部に発疹・斑点丘 疹状→水疱→顆粒状痂皮	すべての発疹が痂皮(かさぶた) になったとき
プール熱 (咽頭結膜炎)	5～6日	○	潜伏期後半～発症 後約6日	発熱・全身症状 咽頭炎と結膜炎の合併症	解熱し、主要症状がなくなった 後、2日を経過してから
流行性角結膜炎	1週間以上	○	発病後約2週間	軽熱・頭痛・全身倦怠・結膜 の炎症・瞼浮腫・目やに	治癒するまで
腸管出血性大腸菌 感染症	3～4日 (1～8日)	○	便中に菌が排出 されている間	激しい腹痛、頻回の水様便 さらに血便	治療終了後、検便を48時間あけて 2回行い、菌陰性を認められてから
結核	6か月以内	○	喀痰の塗抹検査が 陽性の間	発熱・咳・呼吸困難・ チアノーゼなど	感染の恐れがなくなってから
ヘルパンギーナ	2～7日	△	急性期の数日間	高熱・咽頭炎・咽頭に水疱	発熱や口腔内の水疱、潰瘍の 心配がなく、普段の食事がとれる
手足口病	2～7日	△	水疱消滅まで	感冒様症状・手足口に 赤斑→水疱	元気で普段の食事が とれること
りんご病 (伝染性紅斑)	17～18日	△	14～20日	顔面赤斑とくに頬部の 赤斑性発疹赤斑	感染力はないので、 全身状態が良いこと
溶連菌感染症	2～4日	△	潜伏期後半から 発症後約7日間	発熱・咽頭痛・扁桃腺炎・莓舌 頸部リンパ節炎・全身に発疹	有効治癒を始めてから 2～3日たって
嘔吐下痢症 (ロタウイルスによるもの)	1～3日	△	不定期	発熱・下痢・嘔吐	主な症状がほとんど消滅し 医師より登所の許可が出たとき
感染性胃腸炎 小型球形ウイルスSRSV	1～3日	△	症状のある時期	発熱・腹痛・下痢	〃
マイコプラズマ肺炎 (うつる肺炎)	10～24日	△	4～6週間	咳・発熱・呼吸困難	症状が改善し、元気であれば、 登所可能

RSウイルス感染	4～6日	△	呼吸器症状のある間	呼吸困難 気管支炎、肺炎の合併症	特に呼吸困難などの症状が なくなってから
突発性発疹	約10日	△	発熱中	高熱、3日後に全身に発疹	主な症状がほとんど消滅し 医師より登所の許可が出たとき
帯状疱疹		△		直径1～3mmの半球状 丘疹	すべての発疹が痂皮化してから
ヘルペス性菌肉口内炎 (単純ヘルペス感染症)	2日～2週間	×	水疱を形成している間	口内炎症	症状が改善し、元であれば 登所可能
とびひ (伝染性濃痂疹)	2～10日	×	水疱消滅まで	主として豆粒大の水疱、 自覚症状あまりなし	他人への感染の恐れがないと 医師が認めたとき
水いぼ (伝染性軟属腫)	14～50日	×		球状のいぼ	〃

○ は医師の治癒証明書が必要なもの    △ は医師の指導に従って、保護者が作成する登園届のみでよいもの

### ●病気について

\*子どもは病気やけがをしながら抵抗力をつけ、病気との付き合い方を知っていきますが、無理をするとこじれたり、回復が遅くなります。早期からの安静と家庭における温かい看病が必要です。

朝、家を出る前に調子が悪いと思ったら休ませてあげてください。また、微熱でも元気がない、顔色が悪い、食欲がない、ぐったりしている嘔吐、下痢、などの症状がある場合も休ませてあげてください。

\*薬の投与は、保育所では行いませんので、ご了承ください。

\*持病のある子どもさんは、必ずお知らせください。(アレルギー、けいれん、心臓病、喘息など)